

2 資料調査

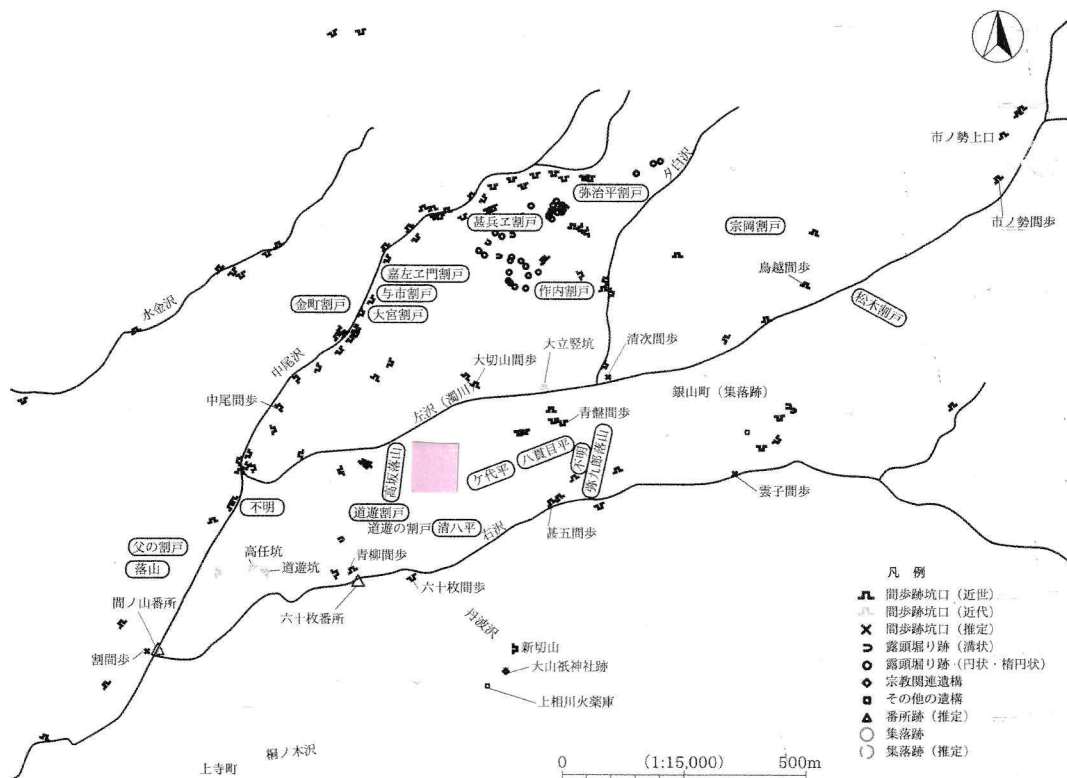
名前がみられる¹⁾(第29図)。このうち、青柳割戸及び父割戸、作内割戸の3カ所が分布調査によって確認されている。現存する道遊の割戸・父の割戸の様相から推測すると、鉾脈部分を掘りとったことによって谷状の地形(割れ目)が残されていることに由来していると考えられる。このうち嘉左衛門割戸と与市割戸のいずれかは大宮割戸と同一の可能性がある。

以下に名称と絵図より推測したおよその位置をのべる。

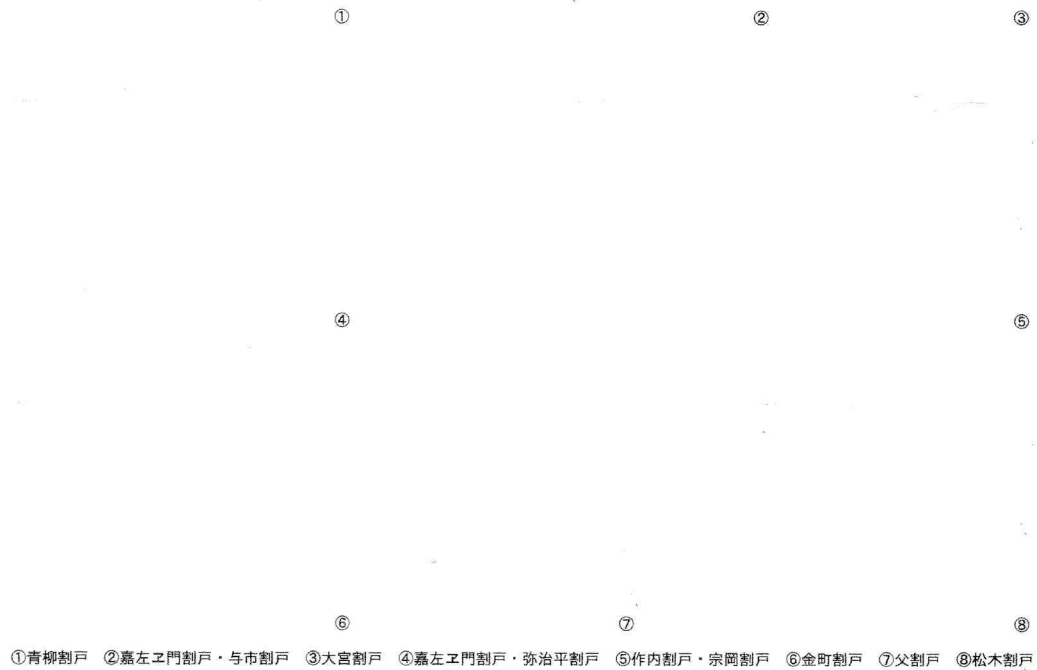
- a-1 青柳割戸(道遊の割戸)(間ノ山) No.1-68-1
- a-2 嘉左衛門割戸(中尾沢上流左岸)
- a-3 金町割戸(中尾沢上流右岸)
- a-4 勘兵衛割戸
- a-5 作内割戸(向山七助間歩そば) No.1-27-5
- a-6 大宮割戸(中尾沢上流左岸)
- a-7 父割戸(左沢右岸、割間歩上方) No.1-131
- a-8 松木割戸(左沢上流左岸、日休間歩上)
- a-9 宗岡割戸(左沢右岸、鳥越間歩上方)
- a-10 弥治平割戸
- a-11 与市割戸(中尾沢上流左岸)

b 落 山

絵図では、高坂・七枚棚(仮称)・弥九郎の3カ所の名前がみられる(第30図)。割戸ほど谷状の地形が



第28図 絵図に描かれた露頭掘り跡の分布状況略図



第 29 図 絵図に描かれた「割戸」

形成されず、山の斜面を削り取ったような状態のものに由来すると考えられる。分布調査では遺構が確認されていないが、道遊の割戸の東側斜面のような状態を指すかもしれない。平成 11 ～ 14 年度の分布調査では遺構を確認できなかった。

- b-1 高坂落山（青柳割戸裏、左沢左岸）
- b-2 七枚棚上落山（仮称）（左沢右岸、四兵衛間歩七枚棚上、父割戸より下方）
- b-3 弥九郎落山（右沢上流右岸）



第 30 図 絵図に描かれた「落山」

- 1) 同一の絵図に全ての割戸が描かれたものは確認されていない。